



2025年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年8月8日

上場会社名 株式会社 朝日ラバー
コード番号 5162 URL <https://www.asahi-rubber.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡邊 陽一郎

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 久保田 敬之

TEL 048-650-6051

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第1四半期の連結業績(2024年4月1日～2024年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	1,838	10.4	12		14	29.2	4	31.7
2024年3月期第1四半期	1,665	5.1	2		11	86.3	6	90.4

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 57百万円 (69.8%) 2024年3月期第1四半期 33百万円 (71.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	0.99	
2024年3月期第1四半期	1.46	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	9,672	5,053	52.2
2024年3月期	9,414	5,042	53.6

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 5,053百万円 2024年3月期 5,042百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2024年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期		10.00		10.00	20.00
2025年3月期(予想)		10.00		10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	3,835	14.2	117	901.9	111	213.4	78	41.1	17.10
通期	7,772	8.2	281	79.6	263	34.8	183	36.7	40.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期1Q	4,618,520 株	2024年3月期	4,618,520 株
期末自己株式数	2025年3月期1Q	58,129 株	2024年3月期	58,129 株
期中平均株式数 (四半期累計)	2025年3月期1Q	4,560,391 株	2024年3月期1Q	4,536,363 株

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 有(任意)

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により、上記予想値と異なる場合があります。

なお、上記予想値に関する事項は添付資料1ページをご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	1
(1) 経営成績に関する説明	1
(2) 財政状態に関する説明	1
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	1
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	2
(1) 四半期連結貸借対照表	2
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	4
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	4
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	6
(セグメント情報等の注記)	6

[期中レビュー報告書]

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当社グループは「私たちは人を豊かにしてグローバル社会貢献度が高い技術会社になる」ことを未来に通ずる姿とし、2030年を見据えた「AR-2030VISION」を定めております。当連結会計年度は「AR-2030VISION」の実現に向けて2023年4月からスタートした第14次三ヵ年中期経営計画の2年目になります。当期経営方針として「魅力を高めて新たな価値を提供しよう」を掲げ、事業活動や社会貢献活動を通じて様々な方々と一緒に未来につながるカタチをつくってまいります。

当社グループの重点事業分野を「光学事業」、「医療・ライフサイエンス事業」、「機能事業」、「通信事業」の4つとし、事業展開を進めるうえで、独自の競争力の源泉となるコア技術である「色と光のコントロール技術」「素材変性技術」「表面改質およびマイクロ加工技術」を軸に、ゴムが有する無限の可能性をさらに進化させる活動を進めております。また、研究開発活動は、新たな素材の開発や表面改質技術の構築に注力して、それぞれの分野に長けた研究機関との連携で早期実現化を推進しております。

当第1四半期連結累計期間における事業環境は、国内の事業環境は緩やかに回復してきましたが、インフレ抑制懸念や中国国内の景気減速など先行き不透明な状況であります。このような状況のもと当社グループは、お客様の要望に素早く応える計画的な生産活動や事業の魅力を高めて貢献する機会を増やす活動を展開し、各重点事業分野への施策を積極的に進めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、連結売上高は工業用ゴム事業、医療衛生用ゴム事業とも販売が増加し連結売上高は18億3千8百万円（前年同期比10.4%増）となりました。利益面においては連結営業利益1千2百万円（前年同期は営業損失2百万円）、連結経常利益は1千4百万円（前年同期比29.2%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は4百万円（前年同期比31.7%減）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりです。

工業用ゴム事業

工業用ゴム事業では、自動車向け製品の受注は、自動車内装照明用のASA COLOR LED、スイッチ用ゴム製品の受注ともに増加いたしました。また、卓球ラケット用ラバーの受注も好調に推移いたしました。一方で、自動認識機器に使用されるRFIDタグ用ゴム製品の受注は、前連結会計年度に続き事業環境の影響を受け低迷しました。

この結果、工業用ゴム事業の連結売上高は14億3百万円（前年同四半期比8.8%増）となりました。またセグメント利益は3千4百万円（前年同四半期比5.7%増）となりました。

医療・衛生用ゴム事業

医療・衛生用ゴム事業では、診断・治療向けの採血用・薬液混注用ゴム栓や医療用逆止弁、医療シミュレータの受注が増加いたしました。一方、プレフィルドシリンジガasket製品は、顧客の生産調整等の影響により受注が低迷いたしました。

この結果、医療・衛生用ゴム事業の連結売上高は4億3千5百万円（前年同四半期比16.0%増）となりました。セグメント利益は4千3百万円（前年同四半期比28.3%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べて2億5千8百万円増加し、96億7千2百万円となりました。その主な要因は、受取手形及び売掛金が減少したものの、現金及び預金、機械装置及び運搬具が増加したことによるものであります。

負債は前連結会計年度末に比べて2億4千7百万円増加し、46億1千9百万円となりました。その主な要因は、一年内返済予定の長期借入金及び長期借入金が増加したものであることによるものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べて1千1百万円増加し、50億5千3百万円となりました。その主な要因は、利益剰余金が減少したものの、為替換算調整勘定が増加したことによるものであります。

また、当社グループでは各事業の受注状況に基づき、生産能力を検討し設備投資を実施、また新たな事業分野への研究開発投資を積極的に実施しております。その必要資金については財政状態の良化を考慮しながら、主に売上代金及び金融機関からの借入金による調達を基本としております。

なお、当第1四半期連結会計期間末における借入金及びリース債務を含む有利子負債の残高は18億6千3百万円となっております。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2024年5月14日に「2024年3月期 決算短信」で公表しました連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,282,039	2,356,674
受取手形及び売掛金	1,619,461	1,527,053
電子記録債権	340,100	354,064
商品及び製品	458,506	437,756
仕掛品	413,661	413,448
原材料及び貯蔵品	234,454	228,952
その他	71,742	93,727
貸倒引当金	△1,500	△1,500
流動資産合計	5,418,466	5,410,177
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,084,692	1,099,847
機械装置及び運搬具（純額）	1,192,088	1,396,721
土地	864,643	864,643
その他（純額）	158,923	205,375
有形固定資産合計	3,300,347	3,566,587
無形固定資産	57,590	53,057
投資その他の資産		
その他	638,380	643,531
貸倒引当金	△440	△440
投資その他の資産合計	637,940	643,091
固定資産合計	3,995,878	4,262,735
資産合計	9,414,344	9,672,912
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	299,019	252,622
電子記録債務	597,699	556,877
短期借入金	300,000	600,000
1年内返済予定の長期借入金	703,485	628,550
未払法人税等	17,033	9,385
偶発損失引当金	40,532	29,049
その他	654,072	899,781
流動負債合計	2,611,842	2,976,266
固定負債		
長期借入金	751,780	630,713
役員株式給付引当金	5,820	7,231
退職給付に係る負債	988,279	991,066
その他	14,460	14,246
固定負債合計	1,760,340	1,643,258
負債合計	4,372,183	4,619,525

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	516,870	516,870
資本剰余金	462,350	462,350
利益剰余金	3,745,400	3,703,975
自己株式	△35,064	△35,064
株主資本合計	4,689,556	4,648,131
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	91,800	96,483
為替換算調整勘定	199,225	248,776
退職給付に係る調整累計額	61,579	59,995
その他の包括利益累計額合計	352,604	405,255
純資産合計	5,042,161	5,053,387
負債純資産合計	9,414,344	9,672,912

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	1,665,709	1,838,742
売上原価	1,312,860	1,441,175
売上総利益	352,849	397,566
販売費及び一般管理費	355,520	384,685
営業利益又は営業損失(△)	△2,670	12,881
営業外収益		
受取利息	136	556
受取配当金	3,977	2,879
為替差益	7,740	—
雑収入	4,540	1,868
営業外収益合計	16,394	5,304
営業外費用		
支払利息	1,441	1,625
為替差損	—	1,509
雑支出	1,257	810
営業外費用合計	2,698	3,945
経常利益	11,025	14,239
特別損失		
固定資産除却損	41	829
特別損失合計	41	829
税金等調整前四半期純利益	10,983	13,410
法人税等	4,378	8,901
四半期純利益	6,605	4,508
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,605	4,508

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期純利益	6,605	4,508
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17,294	4,682
為替換算調整勘定	10,457	49,551
退職給付に係る調整額	△700	△1,583
その他の包括利益合計	27,050	52,650
四半期包括利益	33,656	57,159
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	33,656	57,159

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	97,733千円	111,518千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	工業用ゴム事業	医療・衛生用ゴム事業	合計
売上高			
日本	974,730	252,643	1,227,374
アジア	280,765	122,926	403,692
北米	31,110	107	31,218
ヨーロッパ	3,424	—	3,424
その他	—	—	—
顧客との契約から生じる収益	1,290,032	375,677	1,665,709
その他の収益	—	—	—
外部顧客への売上高	1,290,032	375,677	1,665,709
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	1,290,032	375,677	1,665,709
セグメント利益	32,264	33,644	65,908

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

利益又は損失（△）	金額（千円）
報告セグメント計	65,908
全社費用（注）	△68,579
四半期連結損益計算書の営業損失（△）	△2,670

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない基礎的研究費及び提出会社の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	工業用ゴム事業	医療・衛生用ゴム事業	合計
売上高			
日本	1,077,250	325,374	1,402,624
アジア	304,710	108,825	413,536
北米	17,039	-	17,039
ヨーロッパ	4,117	1,424	5,541
その他	-	-	-
顧客との契約から生じる収益	1,403,117	435,624	1,838,742
その他の収益	-	-	-
外部顧客への売上高	1,403,117	435,624	1,838,742
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-
計	1,403,117	435,624	1,838,742
セグメント利益	34,116	43,174	77,291

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

利益	金額（千円）
報告セグメント計	77,291
全社費用（注）	△64,410
四半期連結損益計算書の営業利益	12,881

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない基礎的研究費及び提出会社の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2024年8月6日

株式会社朝日ラバー

取締役会 御中

東陽監査法人

東京事務所

指定社員
業務執行社員 公認会計士 山田 嗣也

指定社員
業務執行社員 公認会計士 石川 裕樹

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている株式会社朝日ラバーの2024年4月1日から2025年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2024年4月1日から2024年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2024年4月1日から2024年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。
2. XBRL データ及び HTML データは期中レビューの対象には含まれていません。